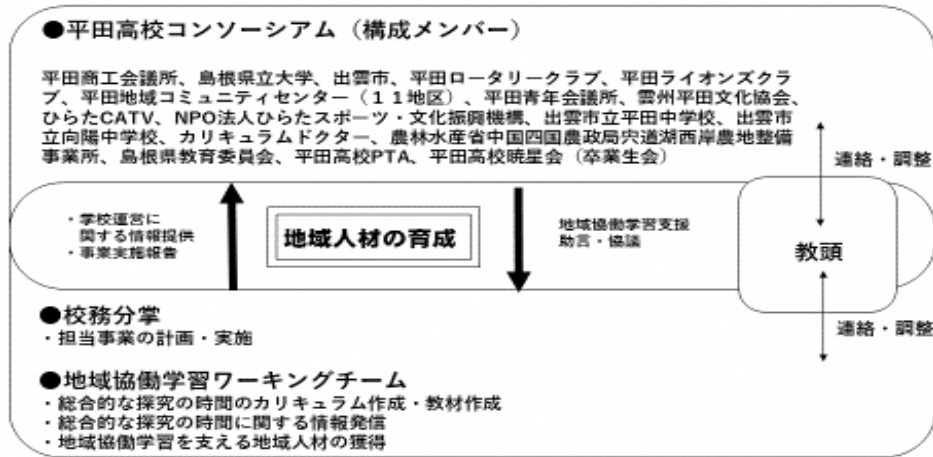


地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築

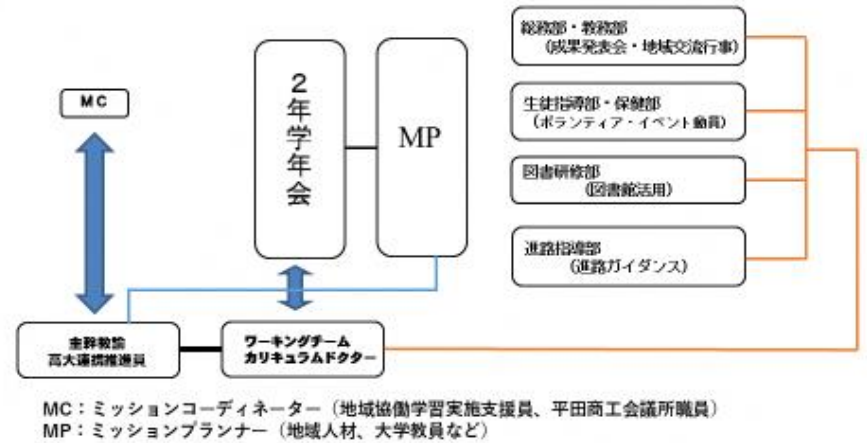
【研究開発の背景】

- ・過疎化や高齢化、産業の衰退が進む平田地域では、平成30年の平田商工会議所創立70周年記念事業を契機とし、地元と高校が連携して地域を活性化させ、地域の将来を担う人材を育てていこうとする気運が高まりつつあった。
- ・本校生徒の課題として、自己肯定感、社会参画意識等の低さがあげられる。地域と協働しながら探究的な学習に取り組むことによって、それらを改善できるという校内の期待感があった。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業の実施体制



2年生地域協働学習・班別探究活動の研究開発体制



令和3年度の目標

- ・「地域とトークフォークダンス」等の行事を通し、地域住民と生徒の交流の場を広げる。
- ・2年生「地域協働学習」において地域人材を開拓、活用する。
- ・全学年において県内大学との連携を充実させる。
- ・「地域協働学習」のルーブリックを作成し、教員間で共有する。
- ・「総合的な探究の時間」と各教科の学習活動の往還を目指した授業を実施する。

取組状況

- ・5月に実施予定だった「地域とトークフォークダンス」は新型コロナウイルス感染拡大のために延期となり、最終的に中止とした。
- ・生徒のニーズに合わせ、商工会議所と連携しながら人材開拓を行った。
- ・キャリア学習を中心とし、全学年で県内大学との連携活動ができた。
- ・研修会を開くなどしてルーブリックの作成に取り組んだ。次年度から教員間での共有をする予定である。
- ・合意形成力養成を目指し、「キョウドウ」をテーマとして研究授業を全教科で実施した。

成果と課題

- ・地域協働学習についての地域の認知度が高まり、中学生にも本校の魅力のひとつとして認識されるようになった。令和3年度・令和4年度入試については志願倍率が上昇した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大のため、地域との関わりを十分に持つことができなかった。オンラインの有効活用などが課題である。
- ・地域人材の開拓は進んでいるが、生徒のニーズと地域人材の適切なマッチングや、生徒が探究的に活動できるよう支援するための指導者側の情報共有やスキルアップが必要である。
- ・「総合的な探究の時間」と各教科の学習内容の連携、教科横断的な指導に繋がる教科間の連携を深化させる必要がある。